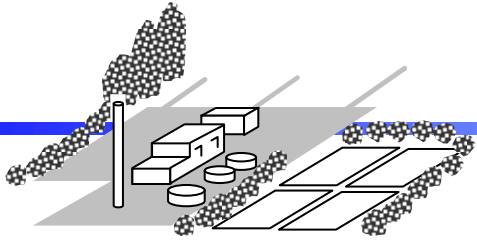
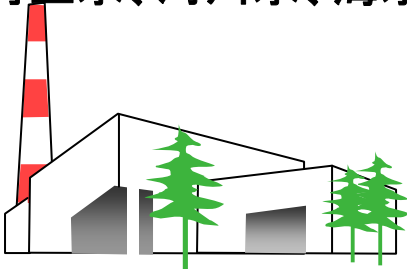

中間まとめと今後の方向性

JAPIC環境委員会

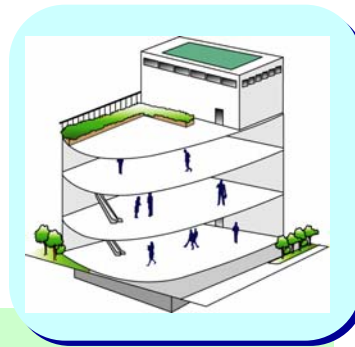
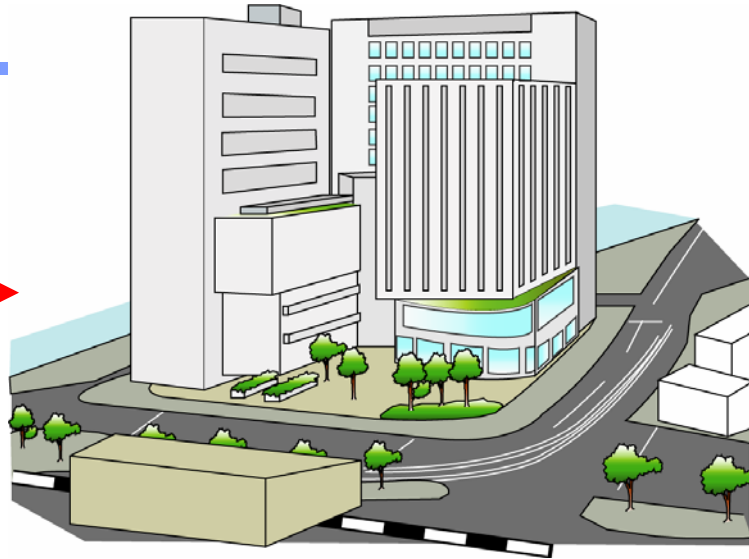
温暖化対応技術の現状と将来見通し まとめ



水再生センター
(再生水、河川水、海水等)



清掃工場(ごみ発電、余熱利用等)



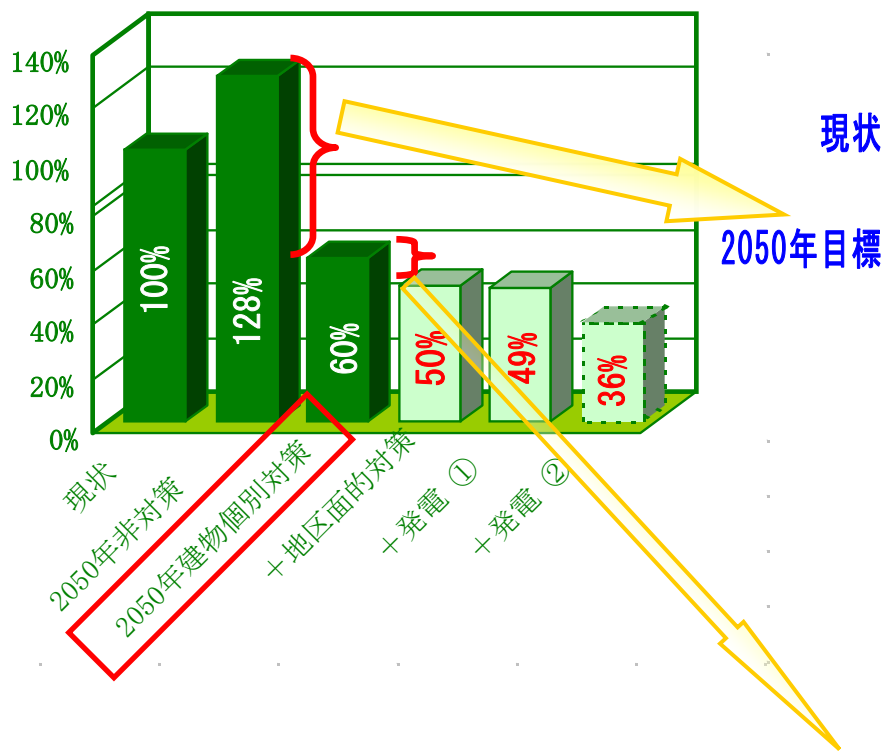
【地区面的対策のメニュー】

- 高効率地域冷暖房システム
- 再生可能・未利用エネ活用
 - ・ 下水、河川水等活用
 - ・ 都市排熱利用（建物排熱、清掃工場等）
- 建物間エネルギー融通（蓄熱・蓄電etc...）
- 負荷平準化技術
- 地域エネルギーマネジメント etc...

【建物個別対策のメニュー】

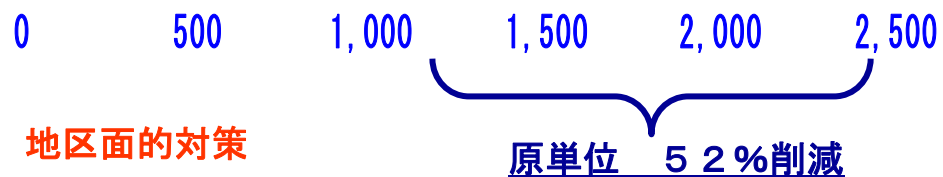
- パッシブ建築技術
- 高効率省エネ設備・熱源機器
(有機EL照明、超高性能HP、コージェネ等)
- 再生可能エネ活用
(次世代型太陽電池、複合型太陽熱利用等)
- 建物エネルギーマネジメント
(BEMS 等) etc...

カーボンマイナス都市実現に向けた技術対応の可能性 まとめ



発電①：モデル対象地区が廃棄するごみによる発電分のみを受電する場合
 発電②：清掃工場の全発電を受電する場合

建物個別対策



地区面的対策

10%削減の内訳



- TEMS
- 下水汚泥等
- 一般ごみ廃熱の熱活用
- 下水、海水

JAPICが目指すカーボンマイナス都市像

温暖化対応の高度集積環境都市

ビジョン

民生部門(街づくり)対応は時間との戦いである。
2050年像の温暖化対応に向けてのバックキャスト的な早期施策実施

誘導政策

都心再開発地区における高度集積都市の先導的導入
官民連携による都市機能更新のグランドデザインの計画導入、
短期間でのモデル化実現

実現効果の提示

技術・効果の実証提示
先導的導入によってでた効果を広く提示する(温暖化対応技術の
信頼性を高め、投資回収を促進する)

波及効果

高度集積都市周辺の中小商業地区における波及効果
コンパクトシティ職住近接の集合住宅への取組み(住機能の移転)

更なる展開

郊外住宅地・都市緑地対策などを組み込んだ都市機能全体の再編と
温暖化対策の加速化
(戸建・集合住宅での温暖化対策・既設建物対応での取組み)

1990年比
CO₂排出量
50%削減

今後20年程の間に実現必須!

